



第19号

平成27年9月

沖縄高専だより

National Institute of Technology, Okinawa College



目次

1. 校長より 沖縄高専のこれからの取組みについて.....	2	12. キャリア教育センター活動紹介.....	12
2. 総務主事・教務主事あいさつ.....	3	13. 学生会より.....	13
3. 学生主事・寮務主事あいさつ.....	4	14. 寮生会より.....	14
4. 後援会長・事務部長あいさつ.....	5	15. グローバル交流推進センターの活動紹介.....	15
5. 第1学年主任・第2学年主任より.....	6	16. 航空技術者プログラムについて.....	16
6. 学科長より.....	7～9	17. 第26回 伊藤園お〜いお茶新俳句大賞.....	16
機械システム工学科・情報通信システム工学科 メディア情報工学科・生物資源工学科・総合科学科		18. 沖縄高専サマースクール2015.....	17
7. 専攻科長より.....	9	19. オープンキャンパス参加者の推移について.....	17
8. 6年目を迎えた技術者教育プログラム.....	10	20. 平成27年度 沖縄県高校総体結果について.....	18
9. 教育福祉推進室より.....	10	21. スナップ写真 歴史・文化・自然探訪ふれあいツアー 体育祭.....	18
10. 図書館・保健室より.....	11	22. 平成27年度 九州沖縄地区高等専門学校体育大会結果について.....	19
11. 地域連携推進センター活動紹介.....	12	23. 平成27年度 人事異動について.....	19
		24. 平成27年度(後期)行事予定表.....	20

独立行政法人 国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古905番地
TEL:0980-55-4003 FAX:0980-55-4012
HP:<http://www.okinawa-ct.ac.jp>



沖縄高専のこれからの取組み

校長 安藤 安則

7月10日の大型台風9号の沖縄襲来については、保護者や同窓会関係者に於かれては大きな被害もなく、また本校においても2,3か所の雨漏りの軽微な損傷で済み、安心しております。

さて、最初の国立高専が高度成長期の1961年に地域貢献の人材育成を目指して設立されて早や50年以上が経ち、沖縄高専は最も新しく創設されて12年目を迎えることになりました。この間、日本は高度成長期から「失われた20年」を経て漸く低成長・少子高齢化社会へ変化し、高専の卒業生としては国際通用性や、産業の高度化に伴う最先端技術の専門性を持ち、問題解決に柔軟な思考で対応できる人材が求められるようになりました。

事実、50年前の国立高専創立時には、高専本科5年卒業後にほぼ100%の学生が就職しておりましたが、現在では本科卒業後就職は約60%、高専の専攻科や大学への進学は約40%の比率に変化してまいりました。

この流れと並行して、全国の国立高専は2004年度より独立行政法人・国立高専機構に属するようになり、「各高専運営の効率化」と「地域貢献を」より一層求められ、特徴ある人材育成がそれぞれ高専の生き残りの重要な要素となってきました。

このような時代の変化に対応して、本校は、沖縄高専関係各位のご協力を頂いて、機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科の本科4学科と各学科共通の教養科目を担当する総合科学科、本科卒業等の後に更に高度な専門教育を行う2年制の専攻科を置いて、其々の専門性に優れ、コミュニケーション能力を持ち、地域貢献に意欲的な人材を輩出してきております。

これからの新しい取組みとして、沖縄の21世紀ビジョンに基づく沖縄の発展計画に対応し、2015年度より日本の航空会社（ANAやJTA）や重工業メーカー（MHI, IHI）等のご協力を頂き、更に九州大学工学部航空宇宙専攻部門のご協力も得て、国立高専として初となる「航空技術者プログラム」を開設しています。

また、昨今、社会的に重要視されている情報セキュリティ人材や医工連携人材育成等の新規プロジェクトにも国、県、企業や他の高等教育機関等と協力して積極的に取り組んでおります。

我々教職員は沖縄高専の関係者と一体となって、より良い教育環境の実現に向けて精進してまいりますので、今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



総務主事あいさつ

総務主事 平山 けい

今年度より総務主事を拝命いたしております生物資源工学科の平山けいです。沖縄高専は開学より12年目を迎えました。日頃より本校にご支援ご協力をいただいている産学連携協力会会員、後援会、同窓会、保護者の皆様にこの場を借りて心より感謝申し上げます。微力ではございますが今年一年総務主事として沖縄高専の発展のために邁進する所存です。

さて、総務主事は校長を補佐し、教務、学生、寮務の各主事が所掌するものを除く予算・規則・評価・将来計画などを担当しております。全国にある51高専・55キャンパスの高専では、50周年を過ぎた今、技術者を育てる高専の在り方自体に大きな改革が文科省から求められています。高専のブロック化や教育方法の改革が叫ばれ、全国の高専で改革に向けて何らかの動きが始まっています。すでに本校では組織改革の一端として、全国高専では例を見ない航空工学プログラムが今年度より動き始めておりますが、本校も全国高専と足並みをそろえ、5年先10年先を見据えた大きな改革を行う必要が出てきました。文科省からの大幅な予算削減が続く中、本校としても独自の予算獲得のための自助努力、有効な予算執行の在り方の検討や実施等の他、将来を見据えた学科再編を含めた組織改革にも取り組む必要があります。これらの改革推進と同時に、開学の精神に基づき沖縄の地域に根差した高専であるためにも、地元企業の方々との産学連携や小中学校等教育機関との連携や出前授業等にもこれまで以上に注力していく機会を増やしていく所存です。何よりも地元沖縄に愛される高専として改革を進めて行きます。今後の本校の改革の動きにご注目いただきたく存じます。皆様方におかれましては、今後とも本校に変わらぬご支援ご協力をいただけますようどうぞよろしくお願い申し上げます。



教務主事あいさつ

教務主事 杉本 和英

本年度、教務主事・副校長を拝命いたしました情報通信システム工学科の杉本和英でございます。

今回、教務主事としては初めての御挨拶となります。教務主事・副校長として校長を補佐し、本校学校運営の中でも、教務に関して、今年度は特に、学事暦の見直し・教育カリキュラムの見直し・アクティブラーニングの推進・教育力の向上に向けた施策の検討・情報セキュリティ管理体制の構築に注力しております。

先日開催いたしましたオープンキャンパスに際しましては、お暑い中、多数のご参加をいただきありがとうございました。教職員・学生との交流を通じ、本校へのご理解を深めていただくとともに、貴重なご意見も頂戴することができました。また、公開授業週間にも多数お越しいただきました皆様には、本校の授業風景と合わせて各科目の履修内容や雰囲気に関しまして、お知り置きいただけたものと思っております。

本校は、高等教育機関であり、工学系の専門教育についても早期に開始することにより、実践的な技術者を育成することで、産業界はもとより大学・大学院からも高い評価を獲得できております。しかしながら、一般科目に加え専門科目も履修することで修得すべき単位数も多く、自ら学ぶ姿勢が重要となります。

新入生においては、どのように学んでいけば良いのかといった不安も多いことと思います。また、将来どのような分野で技術者・科学者として活躍して行くかといったキャリア・パスの設計についても迷いも多く、これらの不安を払拭し早期に目標設定できるよう、導入教育・キャリア教育に関する取組みとして、以下について実施して参りました。

- ・1年生を対象とした専門学科教員による「よろず相談会（進路決定に向けた学科教員との情報交換会）」（年3回、今後継続実施予定）

- ・2～5年生の先輩学生による1年生への中堅試験対策講座

加えて、グローバル人材育成を念頭に、以下についても実施して参ります（一部は既に開始しています。）

- ・九州・沖縄地区9高専連携による長期・短期海外インターンシップ派遣・海外研修会への参加

- ・連携協定校との英語による研究内容の発表・ワークショップへの参加

- ・連携協定校との短期交換留学（受入れ・派遣共）

- ・外部からの専門教員の招聘による英語特別講座

また、本校では、PBL(Project/Problem Based Learning)ならびにアクティブラーニングを積極推進し、自ら学ぶ姿勢の涵養に加え、競争相手を蹴落とすのではなく、共に学ぶ仲間と磨き合い、互いを高めることで成長し、知識とスキル(技能)を修得して貰いたいと考えております。しかしながら、修学・進路決定等、迷いや悩みも多い時期でありますので、保護者の皆様におかれましては、まずは、学生本人との対話を密にさせていただきたく存じます。加えて、本校教職員との情報交換・共有を積極的にはかっていただくとともに、現場と一体となって教育・指導へのご理解とご協力が不可欠となります。

今後とも温かなご支援とご理解・ご協力を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。



学生主事あいさつ

学生主事 伊波 靖

日頃より本校の学生指導や課外活動へのご理解とご支援に感謝申し上げます。

今年度も4月の体育祭を皮切りに高校総体、高校野球選手権沖縄大会への参加や九州沖縄地区高専体育大会への参加など学生の課外活動が活発に行われています。課外活動に対しては派遣費の補助をはじめとして、後援会よりのご支援や、日頃の練習への保護者の方々のご協力、関係教職員の方々に感謝申し上げます。

今年度は全国高専体育大会が九州・沖縄地区で開催され、本校がその主管校として実施に向けて様々な準備を行っているところです。全国大会の開催に当たっては後援会からのご支援並びにご協力もいただき、重ねて感謝申し上げます。また、本校は卓球競技の担当校として8月21日の開会式を皮切りにして、8月23日まで那覇市民体育館を会場として卓球競技を開催いたします。各地区を勝ち抜いた選手たちが二日間に渡って熱戦を繰り広げます。

車両通学に関しましては、例年どおり4月に交通安全講話を実施し、6月には学生会を中心とした沖縄高専交通安全期間を設定し交通安全啓蒙活動を行って参りました。昨年度は、幸いにして大きな交通事故は発生いたしませんでした。スピード超過等の交通違反が前年度に比べて倍増しており、引き続き学校でもメール等で学生への交通安全に関しての注意啓蒙を行っておりますが、車両通学をしている学生の保護者におかれましては、ご家庭で交通安全について話し合いを持っていただきますようお願いいたします。

学生の生活面に関しましては、学生の携帯電話やスマートフォン等の携帯端末の利用に関してLINE等のSNS上におけるいじめや授業中の携帯端末の利用など、いくつかの問題が発生しております。学校としても授業への携帯端末の持ち込みを禁止し、メール等での注意喚起や主事講話での注意などを行っておりますが、ご家庭でも携帯端末の正しい利用に関して話し合いを持っていただきますようお願いいたします。

全ての学生が無事卒業し良き社会人として巣立っていくためにもより良い学校生活の実現に向けて今後とも努力いたしますので、学校へのご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



寮務主事あいさつ

寮務主事 成田 誠

沖縄高専も12年目を迎え、私も5代目寮務主事として2年目を迎えます。学生寮としては全国屈指の大規模であるとともに約半数が全寮制の下で入寮している1,2年生ということもあり、学生寮委員会、寮務係職員、指導員、宿日直にあたる教職員とともに学生の自主性を尊重しつつ、全力を尽くし指導しますので、よろしくお願い致します。

特に新入生の保護者におかれましては、寮内での事故等を、心配されているかもしれません。学生寮としましては事故防止に真摯に取り組んでおります。特に教員、学生、保護者の方々との情報共有を密にし、寮生の状態に気を配り対処していくことが、何よりと考えます。

来年度入学者より『1年生のみ全寮制、2年生は希望する者は優先的に入寮、3年生以上は希望者に対して入寮選考を経て入寮を認める』と変更となります。一部の寮生にとっては寮生活が負担となり、それにより学生(本人だけでなく周囲の学生も)が勉学に集中できなくなることがあります。これは学生寮の目的としては本末転倒であり、したがって本人が望むのであれば、寮外から通うという選択肢を設けることが良いであろう、との考えからこのような変更となりました。

残念なことながら、前期終了時点で寮規則違反による処分が幾つかありました。処分に至らずとも問題は多々発生しております。寮規則順守は勿論、自律・協調など今後社会に出たときに必要なことを学ぶ大切な時間・場所であることを自覚してもらいたいと考えております。

一方で、今年度も寮生自身が主体的に寮の行事を企画・運営しています。教員が寮生に対して管理するための指示(命令)を出してばかりでなく、寮生が積極的に“より良い寮生活”のための寮運営に参加していることは新しい動きであり、今後もこうした寮生の主体性に期待すると同時に、私も彼らを積極的にサポートしていきます。



後援会長あいさつ

後援会長 大瀨 安典

本年度で会長3年目になります沖縄高専後援会会長の大瀨です。改めてよろしくお願い申し上げます。

去った6月6日にちやたんニライセンター（北谷町）において平成27年度総会を開催しました。当日は、多くの会員の出席があり、全ての議案が滞りなく承認されました。

今年度は、これまで総会の中で行われていた学校報告を「学校インフォメーション」として総会後に催し、安藤校長による講話も行われました。また、同会場にて行われた懇親会には、進路が内定した9名の学生の参加があり、学生生活の様子や就職（進学）活動に向けての取り組み方など、学生の声を身近に聞くことができ、全体を通して充実した行事となりました。

さて、沖縄高専の学生の活躍は目覚ましいものがあり、昨年度は、全国高専体育大会女子バスケットボール部3位（4年連続出場）、プログラミングコンテスト本選準優勝、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテストの全国大会出場等、様々な大会やコンテストに出場、優秀な成績をおさめるなど、多くの学生が課外活動において活躍し、本年度も活躍が期待されるところです。

更に本年度は、沖縄高専が主管校となって、全国高専体育大会卓球競技が沖縄県那覇市において開催されます。ぜひ会場へ足を運んでいただき、沖縄高専の選手はもちろん、全国の選手を応援していただきますようお願いいたします。

また、学生の進路については、本会の支援のもと、教職員の皆様により進路開拓に務めていただいた結果、平成26年度卒業・修了生の進路は、ほぼ決定したと聞いております。進路開拓にあたっては、キャリア教育センターを中心に就職後のミスマッチを防ぐための取り組みにも力を入れており、保護者からの相談も受けていただけるようです。ぜひご活用下さい。

本会は、沖縄高専における教育・研究事業を支援するとともに、会員相互の交流・連携を図ることを目的とし、学生の教育・研究活動や課外活動をはじめとする様々な支援に取り組んでおります。引き続き、本年度も学生の活動や進路決定に向けて全面的に支援していけるよう取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後ともご理解とご協力のほどをお願いいたします。

最後に魅力ある活発な後援会をつくるためには、会員1人ひとりのご理解と積極的なご協力が欠かせません。ぜひともご自身が所属する支部活動へ積極的にご参加下さい。

また、本会に対するご意見やご要望等がございましたら、各支部の理事、もしくは事務局までお気軽にお問い合わせ下さい。



事務部長あいさつ

事務部長 仲地 善則

今年は、沖縄高専にとって新しいことがいくつかありました。

まず、4月から航空技術者プログラムが開設されました。4年生から専攻科2年生までの4年間で、航空整備士及びエンジニアとしての必要な基礎知識・技能を習得し航空産業の技術者として中心的な役割を担うことができる人材を育成するプログラムで、機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科の学生が対象です。卒業後の就職先としては、那覇を拠点とする予定の航空機整備会社（MRO Japan）やANA、JTAなどが考えられます。

次に、校長も3代目の安藤校長が就任しました。安藤校長は、航空宇宙工学が専門で、航空技術者プログラムが進展することと思います。また、前職が島根大学の国際センター長でしたので、グローバル教育や国際化の面でも進んでいくことと思います。

さて、本校の学生は進学・就職で毎年100%近い実績を残しています。また昨年度もプログラミングコンテストやパソコン甲子園で優秀な成績を残し、ロボコン全国大会への出場、高専体育大会の全国大会への出場などと活躍し着々と伝統を築きあげています。

本校は、今後とも伝統を築きつつ新しいことにチャレンジしていきますのでご支援をよろしくお願い申し上げます。



第1学年主任より

第1学年主任 森田 正亮

入学当初は、親元を離れての寮生活や90分授業など、これまでとは大きく異なる生活に戸惑うことの多かったと思われる一年生ですが、入学して四ヶ月が過ぎ、学校生活にかなり慣れてきているようです。辺野古という特殊な環境ではありますが、他校にはない、自由な雰囲気を楽しんでいる学生が多い様子です。

今年度の一年生は、ここまで見た限りでは遅刻や欠課が比較的少なく、時間管理についてはきちんとしている学生が多いと思います。しかし、最近生活に慣れてきたためか、授業中の居眠りや私語が目立つ学生、あるいは授業が始まる直前までスマートフォンのゲームに興じる学生の姿が目につくようになりました。また、学生同士の間での乱暴な言葉遣いも気になっています。これは場合によっては学生間のトラブル・いじめに発展しかねないからです。一般的に、後期に入ると生活習慣が乱れたり、トラブルを抱える学生が出てきますが、この学年はすでに緩んでいるように感じられて、気がかりです。今一度、適度な緊張感を持って生活してほしいと思います。

また、後期に入ると成績に関する問題、つまり単位修得が危ぶまれる科目のある学生が出てきます。今すでに居眠りが目立つ学生はその予備軍です。そのような学生には特に注意を払って面談や助言をしていきますが、ご家庭におかれましても注意いただければと思います。また、成績や学習態度について、お聞きになりたいことがございましたら、いつでも学級担任や学科担任にご相談ください。

今後とも、保護者の皆さま方のご支援とご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。



第2学年主任より

第2学年主任 渡利 正弘

新学期が始まり、数ヶ月が経ちました。当初はぎこちなかった2年生も徐々に新しい混合クラスに慣れ、今では各クラスごとの特色がでてきたように思います。また新しく1年生が入学したことで、先輩としての自覚も芽生えつつあるように感じられます。一方で、第2学年はよくない意味で高専に慣れてしまう時期でもあります。学期が進むにつれ、朝の遅刻や欠課、成績不振などが目立つ学生が増えてまいります。現在、沖縄高専ではほとんどの2年生が寮生活を送っていますが、部屋が各人個室のため過ごし方は多分に各学生の自主性に任されています。そこで自由の意味をはき違えてしまうと、生活が乱れ、学校生活全般に影響が出てくる恐れがあります。慣れてきたこの時期だからこそ、今一度「何をするために、自分は高専に入学したのか？」を自問自答し、いい意味での緊張感を持ち続けてもらいたいと思います。

高専生活5年間の中での2年生は、まだまだ先が長いように思いがちですが、本校では4年生の夏に企業へのインターンシップが控えており、4年生になった段階である程度、自分の将来へのビジョンを持っておくことが望ましいです。そう考えると、思ったほど多くの時間が残されているわけではありません。学生達にはまだ2年生ではなく、もう2年生という意識を持ち、今の段階から5年後、10年後の自分の将来を探りながら日々を大切に過ごしていったほしいと思います。幸い沖縄高専には、色々なことに挑戦できる環境が整っています。そして第2学年は高学年と比べて、自分の自由になる時間が多い学年です。周りにあるチャンスを活かせるかどうかは、結局自分次第です。もし何か自分の中で気になることに出会ったら、物怖じせず積極的にチャレンジしてってもらいたいと思います。また御家庭でも、将来についてお子様とお話いただける機会を持っていただけましたら幸いに存じます。

学生達の成長のためには、学校とご家庭との連携が不可欠です。今後とも本校へのご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



機械システム工学科

機械システム工学科長
眞喜志 隆

皆さんは、機械工学に対してどのようなイメージを持っているでしょうか。機械工学は、産業の基礎になる学問・技術分野で、モノを作るために必要なほとんどの内容を学びます。どのような材料を選べばいいのか・どのように加工すればいいのか・どのように設計すればいいのか・どのように動かせばいいのか・どうやって制御すればいいのか、これらを順序立てて学び統合していくのが機械システム工学科です。その基礎には数学と物理の知識が必要になります。かなり広い分野を学ぶため、一番勉強の忙しい学科です。しかし、将来の進路は広い分野に進んでいける学科です。自動車を造るにも、食品を作るにも、モノを作るためにも、機械系の技術者が必ず必要になります。どのような分野にも進んでいけるのが機械システム工学科の強みです。

皆さんはどのような思いを抱いて沖縄高専に入学したのでしょうか。高専は高等学校とは異なる考え方でカリキュラムが組まれています。中学校とは大きく異なり、大学と同様な考え方で作られています。このため、高専で学ぶ者は学生と呼ばれます。学生とは、自分で考えて行動し、勉学に励む者のことです。本校の設立の理念は「人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成」です。「開拓精神あふれる技術者」とはどのような人間なのか意識しながら勉学に励んでください。

専門の講義が増え内容が深くなっていくと、わからないところも出てくると思います。わからないことをわからないままにしていると先に進んでいきません。理解が不足しているところは、積極的に授業中でも空き時間でも担当教員に質問して下さい。聞かないままそのままにしておくと、絶対につまづきます。教員は学生からの質問を待っていると考えて下さい。低学年でのつまづきは低学年で補ってください。3年生では将来の進路を意識して、情報を集めることをして下さい。4年生からは、はっきりと進路を意識した活動が必要になります。今年度から新しい就職協定が始まり、学生も企業も戸惑いながらの求人・就職活動になっていますが、本格的な進路選択に関しての活動は4年生の後半から始まります。5年生になった時に何も考えていないようなら本当に苦労します。沖縄高専での5年間は15歳から20歳という、人生の中でも密度の濃い時間を過ごす期間です。これまでにないほど勉強して、悔いのない高専生活を送ってください。



情報通信システム工学科

情報通信システム工学科長
兼城 千波

沖縄高専は今年で12期生を迎え、新たな年度をスタートさせました。社会に貢献する人材を輩出すべく、日頃の授業だけでなく、部活動を含めて、様々な形で教職員は学生の皆さんをサポートしています。その時代、その時々で変わりゆく社会ニーズに則した人材を育成することは簡単なことではありません。しかしながら、どんな時も必要とされる人材というのは、「人間力」のある人材です。一言で「人間力」といっても難しいもので、一般的には「知的能力的要素」「社会・対人関係力的要素」「自己制御的要素」を備えることを言います。「知的能力的要素」は、基礎学力と基盤とし、専門的な知識を持ち、それを持続していく力であり、高専のカリキュラムの中では、一般科目・専門科目による知識の修得になります。「社会・対人関係力的要素」は、他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力のことで、授業におけるPBLや部活動、課外活動で培われるものです。「自己制御的要素」は、知的能力や社会・対人関係力を最大限に発揮するための、意欲や心掛けとそれに基づく行動です。15-20歳という著しい成長期においては、これらを経験する機会はたくさんあります。「今、するべきか？」をその時々できちんと考え、人の話をしっかり聞き、行動することが、自分自身の成長へと繋がっていきます。その過程の中で辛いことも逃げ出したいこともあるかもしれません。そのときは、周りの友人、先輩や保護者、教員に相談してください。相談することも、成長への糧となります。

さて、情報通信システム工学科に入学した皆さんは、個人個人が高い志を持ってここにいるはずですが、どんなことを学ぼうとして入学しましたか？「情報通信システム」に関わる分野は非常に幅広く、スマートフォンや家電製品の他、様々な電子機器の制御に至るまで世の中の経済活動を支えている分野です。1年生から学ぶことも多く、数学や物理といった基礎的なところから、電気電子回路やプログラミングといった電気電子工学分野・情報工学分野と広い領域を網羅しながら学修していきます。レポートなどの課題で四苦八苦することもあるでしょう。しかし、長い目で将来を見据えれば、先に述べたように、電子機器を操る電子・情報・通信系技術者は常に必要とされる人材です。必ず、自分が学修してきたことが、人と関わってきたことが活かされる日がやってきます。将来の自分を信じて、今、何をすべきかを考えて、一歩ずつ前に歩き出しましょう。



メディア情報工学科

メディア情報工学科長
姉崎 隆

お陰様で、今年3月にメディア情報工学科本科から39名、専攻科（情報工学コース）から8名の学生が巣立っていきました。それぞれの進路での活躍を期待しています。また、4月に12期生42名（女子学生10名）、専攻科生2名（情報工学コース）が入学してきました。新たな学生が、メディア情報工学科の雰囲気のリフレッシュしてくれるものと期待しています。

さて、例年オープンキャンパスではメディア情報工学科の授業内容を展示しています。今年のオープンキャンパスは、6月27日（土）に行われ、創造実践棟1階のネットワーク演習室において、話題のロボット Pepper のデモ展示、そして手招きで空中を動く Drone のデモ展示を実施しました。当学科が担当するコンピュータの分野において大きな変化が起こりつつあります。社会ではロボット革命と呼んでいますが、これはメカトロニクスのロボットだけではなく、コンピュータシステムでも人工知能の名称で変革を巻き起こしています。今回のデモ展示は、当学科にそれらを迎え撃つ取り組みができている証左、と考える次第です。

昨年より当校は、特例専攻科、航空技術者プログラムの取り組みを始めています。これらは、高専機構が推進する高専課程高度化取り組みの一環であります。引き続きセキュリティ人材育成プログラムも公になります。プログラミング技術を一通り修得すれば、次は社会に出て実力を磨きたいーメディア情報工学科学生の平均的な考え方です。ただ、上に記した人工知能の発展のように、高専におけるプログラミング技術においてもじっくり腰を据えて専門技術を深めるべき状況になりつつあると感じております。

このような取り組みの下、メディア情報工学科生の育成に努めてまいります。引き続きご理解とご協力をよろしくお願いします。



生物資源工学科

生物資源工学科長
三枝 隆裕

本年度から、「学生は学業を優先すべき」との政府要請に経団連が応え、就職活動時期が繰り下げられ企業の採用選考が8月からとなり少し考える時間が取れます。学生は人生の岐路に立ち、就職か進学か、どの企業にするかなど2者択一の選択を余儀なくされます。学生には、良く調査して良かったと思える選択をして欲しいと思っています。

さて、現代社会は、原発事故をはじめ、食糧やエネルギー不足、環境問題、医療問題、雇用問題、ストレス、高齢化社会など多くの問題を抱えています。これらの問題の一端を解決するため、生物資源を利用したエネルギー生産、食糧の増産や健康増進のための機能性製品の開発など、生物資源の持つ無限の可能性を発揮させ人類に役立てる新しい技術開発はますます必要となってきております。

生物資源工学科では、沖縄の亜熱帯性気候で育まれた植物や動物資源の機能性成分の活用技術、微生物や酵素、細胞による有用物質生産などのバイオテクノロジー技術、並びに新しい食品原料や化粧品・医薬品原料の開発力を培う教育を行っております。

さらに、これら高度な研究技術の習得だけではなく、人間性、協調性、創造性、国際性を培い、国内企業、公的機関、海外企業で中心人物となれる人材作りにも力を注いでおります。現代は、飛行機で飛び廻れる時代ですので、沖縄から内地、さらに世界で活躍できるグローバルな人材育成が望まれています。そのためには、語学の修得が必須となりますので、語学の重要性を説き、特に英語教育に力を注いで参ります。

今年は、世相を反映して、就職・進学とも一層厳しいものとなっておりますが、学生、教員共に全力で立ち向かっている所であります。これからも、皆さまのご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。





総合科学科

総合科学科長
星野 恵里子

総合科学科というのは、ほかの専門4学科とは異なり、所属学生数はゼロ、それなのに教員数は18名と一番多く、担当科目も国語・英語・歴史という文系科目、数学・物理・地学という理系科目、さらには健康科学と多岐にわたっています。このような総合科学科の教員が学生の皆さんと一番密に接するのは1・2年生の時でしょう。機械・情報・メディア・生物の各学科の学生は混合クラスと呼ばれる1組から4組に所属し、各組の担任・副担任として総合科学科の教員は関わることになります。そのような立場で、または科目担当者として時折耳にするのは、「こんなことして何の役に立つの？専門とは全く関係ないのに…」「自分にはこんな勉強必要ないと思います。」などという言葉です。もっとも、このような言葉は沖縄高専の学生に限ったことではなく、現代の日本人がよく口に出しているのですが、「こんなことやっても無駄なのではないか？」「自分の人生には役に立たないよ。」などと…。

「虹は何の役に立つのか？」映画俳優ダニエル・デイルの父でもあり、英国の桂冠詩人でもあったセシル・デイ・ルイスは、若い人たちへの文学案内書の中でこのように問いかけました。*POETRY FOR YOU---A Book for Boys and Girls on the Enjoyment of Poetry*（『詩を読む若き人たちへ』）という1944年に英国で出版された書物の中での一節です。今から約70年前の英国でも、若い人たちは「これってなんの役に立つの？」「これは日々の糧を得られないよ」と口に出していたに違いなく、「虹は…」という言葉は人生の先輩であるデイ・ルイスからのメッセージです。「虹は何の役に立つのでしょうか？お茶は役に立ちますか？キャラメルは？サッカーの試合は？素敵なドレスは？…」虹は何の役に立ちませんし、お金も儲かりません。でも虹を見ると私たちはワクワクしますし、その気持ちを「My heart leaps up when I behold a rainbow in the sky」と綴った詩人もいます。キャラメルや素敵なドレスをもらった時、それがなんの役に立つのか、なんて考えないで、口の中に放り込んだり、そでを通したりするだけですよ？ただ、サッカーのルールを知っていればもっとサッカーを楽しめるでしょうし、ファッションセンスを磨けば、自分のファッションプランももっと充実することでしょう。」一見無駄と思えるものでも、まずは享受することです。そして、その際、もっと詳しくその周辺のことを調べてみましょう。そうすることで、「無駄」と切り捨てることで得られない充実感を味わうことができ、すぐには役に立たなくても、きっといつかは役に立ち、人生がもっと豊かになります。このように詩人は主張したのでした。

皆さんも、一見「役に立たない」ものにも真正面から取り組んでみませんか？きっと別の世界が見えてきて、人生がもっと豊かになるに違いありません。そしてこれこそ、人間に生まれてきた醍醐味であり、「文化」と呼ばれるもののなのです。



専攻科長あいさつ

専攻科長
眞喜志 治

本校の専攻科は、本年度より、学位取得のための試験が免除される特例適用専攻科に認定されました。これにより、学位取得に必要な単位数を満たし、かつ「学修総まとめ科目」と呼ばれる専攻科2年の特別研究に関する学内審査において一定基準をクリアすれば、学位授与機構への申請のみで学位を取得できるようになりました。そのため、昨年度までと比較して、学位取得が簡素化されます。さらに、学位取得のための試験対策によって、特別研究を中断する必要がなくなり、自身の研究テーマに集中できる時間が増えるため、よりレベルの高い成果を得ることが期待でき、学生にとって、より良い学修環境が整って来ているように思えます。

その専攻科は、昨年度、34名の修了生を送り出しましたが、申請者全員が当たり前のように学位を取得しています。その内、11名はさらに高度な知識を身に付けるために大学院へ進学し、23名は修得した知識や技術を社会に役立てることを目標に、技術者としての一步を踏み出しました。今年度は、採用時期の変更により就職に関してはこれから本格化しますが、進学希望の学生は続々と大学院への合格を決めており、専攻科2年生全員が順調に進路を決定してくれるものと期待しています。

そんな専攻科では、新しい取り組みとして、エンジニアリングデザイン能力を身に付けることを目的として、専攻科1年の「創造システム工学実験」の内容を大幅にリニューアルしました。このエンジニアリングデザイン能力とは、コミュニケーションスキル、合意形成、課題発見・解決力、論理的思考力、チームワーク力、リーダーシップ、倫理観などを総合したスキルであり、技術者にとって必要不可欠といわれている重要なスキルのひとつです。このスキルを身に付けるために、講義は、チームによるものづくりをメインテーマとした内容で構成されています。また、学生自身が修得したスキルを意識できるような工夫を講義内で施しており、その成果を教員・学生ともに感じています。

こんな専攻科は、知識や技術の修得だけでなく人間力を高めるための取り組みを積極的に取り入れて行きたいと考えていますので、更なる高みを目指すつもりで学生は学年を問わず、気軽に専攻科長に声をかけてください。

6年目を迎えた技術者教育プログラム

評価対応委員長 姉崎 隆

沖縄高専では、各専門学科の本科4年生・5年生と専攻科1年生・2年生の計4年間の教育課程を利用して、技術者に必要な「技術力」、「創造・実践力」、「理解・表現力」を養成するための4つの技術者教育プログラム（機械システム工学プログラム、情報通信システム工学プログラム、メディア情報工学プログラム、生物資源工学プログラム）を設置しています。学位の審査に合格して学位記を授与され、専攻科各コースの課程を修了した学生は、本人の希望により各コースの定める技術者教育プログラムの修了生として修了認定されます。

これは、平成24年4月27日および平成26年3月3日に日本技術者教育認定機構（Japan Accreditation Board for Engineering: 通称 JABEE）から、4つの技術者教育プログラムの内容が社会の要求する知識や能力の水準を満たしていると認定されたことに基づきます。

技術者教育プログラムの修了生（JABEE 修了生）は、技術士機械部門や技術士情報工学部門等の第一次試験が免除されます。技術士の資格は官公庁に就職する際、官公庁から役務を受託する際に有用です。それだけでなく、JABEE 認定は本校の教育の質向上に関する取り組みが世界水準にあることを証明するものでもあります。

outcomes 評価、ルーブリック評価、エンジニアリングデザイン教育、教育のPDCA サイクル、これらは世界の大学教育でターゲットとされる、よりよい教育への取り組みです。JABEE は、率先してこれを審査基準に組み込み、推進してきました。JABEE 認定をツールとして活用した教育の質向上取り組みであり、高専機構もこれを推奨しています。

高専機構は全高専の JABEE 認定を銃爪として、高専の学位授与権を得る取り組みを進めてきました。本校の特別専攻科認定はその途上にあると考えます。最終的な結果を得るためにも、4つの技術者教育プログラムの推進が重要です。

評価対応委員会はこれからも、皆さんの協力を得て、JABEE 認定を活用した、教育の質の向上取り組みを推進する所存です。



中間審査結果（4プログラムいずれも認定）

教育福祉推進室より

教育福祉推進室長 青木久美

教育福祉推進室では、すべての学生が安心して学ぶことができる環境を整えることを目標として、日々、支援に取り組んでいます。その一環として、平成26年度には「学生相談室」を現在の「教育福祉推進室」に改め、学内外の連携を強化しました。また、平成27年度からはサポートルームを設置するとともに、専門の相談員によるカウンセリングのスケジュールも、これまでの週4日から週5日体制に変更いたしました。従来通り、長期休暇中のカウンセリングも実施しています。学生に関する保護者等からの相談も受け付けております。相談の秘密は厳守いたしますので、気軽にご相談ください。カウンセリング予約は、保健室（電話：0980-55-4054、電子メール：hoken@okinawa-ct.ac.jp）に問い合わせるか、もしくは本校のウェブサイト <http://www.okinawa-ct.ac.jp>（トップページ＞教育・学生生活＞教育福祉推進室）をご覧ください。

学校ぐるみ、地域ぐるみで、学生を支え、育てていくために、今後とも皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

図書館より

沖縄高専図書館では、工学、自然科学系を中心とした専門書のほか、一般教養に役立つ図書や小説、雑誌、視聴覚資料など、約6万8千冊の資料を所蔵しています。全て開架されているので、利用者は全ての資料を直接手にとって見ることができます。また、地域貢献のため、一般の方々にも広く開放し、閲覧・貸出等のサービスも行っています。英語多読用の図書も約1万6千冊揃えており、1人5冊まで貸出も可能ですのでどうぞお気軽にご利用ください。



○図書館の開館時間 (<http://www.okinawa-ct.ac.jp/toshokan/> も併せてご覧ください)

【通常期】 平日 8:40 ~ 20:00 土曜 9:00 ~ 17:00 日曜・祝祭日：休館

【休業期】 平日 8:40 ~ 17:00 土日・祝祭日：休館

○座席数：108 席（延面積：740㎡）

○蔵書冊数：約6万8千冊（うち洋書約2万冊）、視聴覚資料 約1,600点

○雑誌：約600種（継続購入86誌）

○新聞：7紙（うち英字新聞1紙）

○年間貸出冊数：35,584冊（平成26年度実績）

○学外者への貸出：ご希望の方へ「利用証」を発行します。「図書館利用願」（図書館カウンターにて配布）へ必要事項を記入し、「身分証」を提示してください。

（図書館への連絡：直通 0980-55-4037）

保健室より

連日暑い日が続いています。暑さが睡眠の妨げになっていませんか。睡眠は必要不可欠。暑さで寝苦しい夜でも質の良い睡眠をとるために少し脳内物質の「セロトニン」と「メラトニン」のお話を。

セロトニンは心と体を元気にする物質、太陽の光（特に朝日）を浴びたりリズム運動することで活性化し、メラトニンは安眠をもたらす物質、日中に光（太陽光）を浴びることでリセット、日没後にセロトニンから合成されるようです。（メラトニン、セロトニンについて興味のある方は調べてみましょう。）睡眠時間には個人差がありますが、寝苦しい夜は上手く冷房を使うなど工夫しながら質の良い睡眠を取るためにも起きる時刻（朝6～8時に）を毎日一定にし、光を浴びる。朝食を毎日食べる。日中に活動する（熱中症には注意）。夜にスマホやネットやテレビなどの光を浴びすぎないなど心がけてみましょう。



保健室はメディア棟2階にあります。傷病時の対応、学生定期健康診断、健康相談、健康診断証明書の発行、災害救済給付の手続きなど行っています。保健室には身長・体重・血圧計がありますので測定にも利用できます。又、保健室便りを不定期ではありますが学内メールします。

（看護師：高江洲・安里 TEL：0980-55-4054 e-mail：hoken@okinawa-ct.ac.jp）

地域連携推進センター

沖縄高専では、地域連携推進センターを窓口として、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用し、地域社会との連携・交流の推進、共同研究等による技術開発、及び人材の育成に取り組んでいます。

年間事業としては、沖縄高専フォーラム・情報交換会、月1回の定期的な技術相談会・企業技術者等との懇談会の開催や共同研究、受託研究、受託試験、随時の技術相談の受け入れ、さらに、各種展示会への出展（沖縄の産業まつり、やんばるの産業まつり等）、知的財産セミナー等を実施しています。

また、地域社会との連携・交流の推進や教育・研究の充実ならびに人材育成に取り組んでおり、小中学校生を対象に沖縄高専の設備を利用した体験授業や、小中学校等での出前授業、公開講座・生涯学習講座等を実施し、沖縄高専の教育研究内容を地域へ発信しています。



＜沖縄の産業まつりの一コマ＞



＜中学生向け体験授業の一コマ＞



＜ミニロボットフェスティバルの一コマ＞



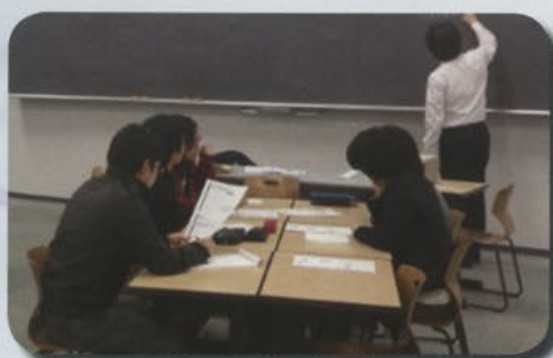
＜沖縄高専フォーラムの一コマ＞

キャリア教育センター活動紹介

沖縄高専キャリア教育センターは、学生のキャリア形成、学生・就職活動を支援することを目的として設置されています。キャリア形成や就職・進路に関する講演会やセミナーを開催しています。学生のみなさんが、どのような進路があるかを知り、各自の進路を考え、決定していく過程のサポートを行っています。また、キャリアアドバイザーによる模擬面接やグループディスカッションを実施しています。



メイクアップセミナー



グループディスカッション

新しい学生会、始動。

KO-TA Happiness Project

K O H P R O



今年度、学生会長を務めさせて頂いている、4年生物資源工学科の具志堅興太と申します。

今年度の学生会は『KOHPRO』という1つのプロジェクトを掲げました。

『KOHPRO』は沖縄高専の学生が「楽しい」「雰囲気がいい」「面白い」と思えるような学生会を作るプロジェクトです。

内容としましては、『学生会組織の抜本的改革』、『行事・イベントの改革・明確化』、『学外交流』、『情報共有』を主軸として動いています。

特に、『情報共有』と『学外交流』には力を入れていきたいと思っています。

これからは、地域や外部と関わって沖縄高専の名を轟かせていきたいです。

平成27年度 学生会長 **具志堅 興太**



高専祭

今年度で第11回となる高専祭。
各学級それぞれの持ち味を活かした
出し物を準備しています。
皆様のご来場をお待ちしております。

体育祭

去る4月29日に、本校グラウンドで、
第18回体育祭が開催されました。
体を動かしながら各学級の絆を深られ
楽しい1日となりました。

編集 座間味 侑也 (学生会副会長)

平成27年度 学生会執行委員会

学生会長	具志堅 興太	〔4-br〕
	〔沖縄市立山内中学校 出身〕	
副会長	座間味 侑也	〔4-mi〕
	〔名護市立名護中学校 出身〕	
副会長	仲嵩 空由	〔3-br〕
	〔与那原町立与那原中学校 出身〕	
総務局長	石川 真帆	〔4-br〕
	〔うるま市立石川中学校 出身〕	
広報局長	江川 達翔	〔4-mi〕
	〔北谷町立倉江中学校 出身〕	
会計局長	山入端 泰志	〔4-ic〕
	〔うるま市立具志川中学校 出身〕	
風紀局長	山城 拓夢	〔4-ms〕
	〔うるま市立伊達中学校 出身〕	

寮生会 より



男子寮長
情報通信システム工学科
4年次 高江洲 慧

平成 26 年度男子寮長を務めます高江洲慧です。昨年度より副寮長として寮長の補佐をしていましたが、寮長となると責任のある仕事が増え、日々奮闘しています。

沖縄高専の学生寮は、入学したときから寮での生活が始まります。そこで、個性的な仲間たちに出会えよう。私は、ここの寮生が卒業などで退寮したときにここで寮生活できてよかったという思い出を作れるような、おもしろい寮になればいいと思います。

私自身、至らぬ点ばかりなのですが、皆さんの協力のおかげで寮長としての仕事を頑張ることができていると感じており、非常に感謝しております。寮長としてこれからも精進してまいりますので、執行部をはじめとした寮生会役員一同をこれからもどうぞよろしくお願い致します。



女子寮長
生物資源工学科
4年次 奥田 愛未

平成 27 年度女子寮長を務めます奥田愛未です。昨年度は副寮長として寮の運営に携わりました。今年度も引き続き寮生会で仕事をしています。

昨年度は、寮日課の変更や新しい行事の企画などを行いました。寮生にとって、より過ごしやすい寮づくりができたと思います。今後も寮生からの意見や要望を取り入れ、皆様の寮生活をさらに楽しく、快適なものにしていくように尽力させていただく所存です。

私自身、至らぬ点が色々ございますが、その度に寮生会役員のお力添えを頂き、非常に感謝しております。寮生会一同、これからも協力して頑張ります。皆さんのご協力をよろしくお願い致します。

寮生会 活動報告

4月20日に避難訓練を行いました。男女保安委員長、保健衛生委員長、指導寮生長らが協力し合い、避難経路図等にも力を入れて取り組んだことで無事に避難訓練を終えることができました。

5月9日、7月4日には特例大掃除を行いました。100名以上の寮生が参加し、寮の清掃に当たりました。

6月27日にはオープンキャンパスが行われました。今年度は寮を紹介するパネル展示を、企画広報委員会が中心となって行いました。

グローバル交流推進センターの活動紹介

グローバル交流推進センター長 田中 博

グローバル交流推進センターでは、沖縄高専の学生の国際交流を推進することを第一の目的として、学生の海外派遣ならびに海外からの留学生や研修生の受け入れに積極的に取り組んでいます。

2015年3月にはシンガポール（提携校：Nanyang Polytechnic）から18名の学生を受け入れ、本校学生と共に「Biotechnology Camp 2015」を企画・開催しました。2012年に第1回を開催して以来、2度目の開催となりました。英語の授業で耳にする英語とは異なる“サウンド”の英語に戸惑いながらも、「シンガポールの友達を作る!」、「とにかく交流する!」といったそれぞれの目標に挑戦した学生たちは、最終日の成果発表会では混合チームの中で自分の役割を見つけ、力を発揮し、そして胸を張って発表しました。「また来年も参加したい!」、「今度はシンガポールに行ってみたい!」という学生たちの声こそが、一番の成果になりました。



Biotechnology Camp 2015に参加した学生の皆さん

2015年7月には独立法人科学技術振興機構（JST）の支援を受け、台湾（提携校：国立台北科学技術大学）から7名の学生を招聘して「さくらサイエンスプログラム」を企画・実施しました。沖縄高専における先端的な高周波回路設計・実装・評価技術の体験研修を中心に、沖縄高専の学生との交流授業、研究室見学、沖縄科学技術大学院大学（OIST）における先端研究活動見学、国立海洋博記念公園、首里城の施設見学などを通して、アジアのゲートウェイである沖縄における様々な科学技術、文化活動の先進的な取り組みを学びました。

2015年の夏休みには、九州沖縄地区の高専で推進している「9高専連携事業」の支援を受けて、沖縄高専が主担当校となって2つの国際学生交流プログラムを企画・実施します。1つ目のプログラムは台湾の国立台北科学技術大学と連携して実施する「台北技科大サマープログラム」で、中国語研修、英語研修、文化交流、現地企業訪問などの活動が計画されています。10名の募集に対し、九州沖縄地区から25名を超える学生の応募があり、20名のプログラムとして実施することが決定しています。本校からは10名の本科生が参加します。2つ目のプログラムはタイのキングモンクット工科大学ノースバンコク校と連携して実施するプログラムで、学生交流を通じたタイ語実践学習、タイの歴史・文化の体験学習、ミニプロジェクト、企業見学などの活動が予定されています。本校からは5名の学生が参加します。

グローバル交流推進センターでは、「トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム」や「9高専連携事業」をはじめとする海外派遣プログラム（経費支援を含む）をタイムリーに情報提供し、また国費留学生や海外からの留学生・研修生との交流の場を沖縄高専内に積極的に提供することで、沖縄高専に集う学生にグローバルの世界を紹介しています。



学生が企画した「イカ解剖実験」の様子

航空技術者プログラムについて

こんにちは。ANAの航空整備士の経験を生かして、4月から飛行機に関する内容の選択科目を担当することになりました。よろしくお願いします。

みなさんの沖縄県は、今注目されています。日本の国土は北の端から南の端まで約4000km。沖縄は日本の国の南西の端ですが、実はアジアの中心です。那覇空港はアジアの物流の中継地点として、毎晩「生鮮食料品」や「部品」等を積み替えて、早朝に目的地に向けて出発します。これまでより早く目的地に品物を届けることができるようになりました。2本目の滑走路の建設が計画されています。沖縄県に進出する企業に対しては、法人税減免といういい話があります。ANAは航空機を整備する新会社「MRO JAPAN」を作りました。航空機製造に関係する三菱重工、JAMCOをはじめ、地元の企業や銀行の出資をいただき、航空機を整備するための格納庫を那覇空港内に作ります。沖縄県内で航空機関連の仕事が増えますので、働く人も増えます。沖縄県内で就職を希望する人にとっては、チャンスが来ます。

授業の内容は、1年生から3年生までに教わった知識の上に4年生から飛行機の知識を積み重ねていきます。4年生では座学と航空会社でのインターンシップ、5年生では座学と実習を計画します。5年生で卒業して航空機整備関連の職業を目指す道があります。専攻科に進んでさらに2年間勉強を

して航空機の研究、設計や製造を行う職業を目指す道もあります。専攻科の授業の一部は九州大学の先生による講義が計画されます。

飛行機に乗ったことのある人の中で、水平飛行になった頃に持ってきたパンやお菓子の袋が破裂しそうに膨らんだのを見たことはありませんか？ トイレの水を流したら大きな音がしてびっくりしませんでしたか？飛行機は、富士山やエベレストの山頂より高いところ：空気が薄いところを飛びますが、不思議じゃないですか？

ロボットもおもしろいけれど、4年生になったら飛行機の話聞いて将来航空関係の仕事をしてほしいかなと思う人は、話を聞きに来てください。



「第26回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」で大賞受賞者が出る

Had a Winner for the Grand Prize in the 26th ITO EN Oi Ocha New Haiku Contest among our students!

標記のコンクールで、本校で「大賞」受賞が出ました。今回は176万句を超える応募があった中での快挙でした。昨年度応募しています。入賞・入選者は次のとおりです。3年生・4年生・5年生を中心に第22回から応募をし、第25回まで連続4回「優秀学校賞」（入賞5名以上）でした。

《入賞》

【大賞】

砂川 航輝（3月卒業・メディア情報工学科）
「静電気バチンと弾ける冬の距離」

【都道府県賞】

中地 葉月（メディア情報工学科4年）
「赤ちゃんの気持ち分からず秋の空」

【佳作特別賞】

長嶺 由太哉（情報通信システム工学科5年）
「冬の夜冷たい弦を掻き鳴らす」

《入選》

【佳作】

池原 喜弥（情報通信システム工学科4年）
「夕立よ言えぬ気持ち流してくれ」
座間味 亜紀（生物資源工学科4年）
「青春は一色だけで成り立たず」
大嶺 漢（3月卒業・情報通信システム工学科）
「火の花が辺りに照らす影三つ」
金城 真人（機械システム工学科5年）
「乳母車同じ寝顔の子が二人」
照屋 孔明（機械システム工学科5年）
「秋香る寂れた街の鉄の色」

《入選》

【佳作】

具志 美香子（生物資源工学科5年）
「千歳飴娘も食べる同じ味」
玉那覇 太也（生物資源工学科5年）
「秋の風僕のををいいていく」
上地 輝（3月卒業・生物資源工学科）
「冬海に竿先放つ大野心」
金城 徹哉（3月卒業・情報通信システム工学科）
「流星群眠気と闘う卒研室」
西原 希咲（メディア情報工学科5年）
「ぐるぐるのマフラーうまる林檎色」

沖縄高専サマースクール2015

台風接近により中止

サマースクールは、中学校3年生を対象に模擬授業を行うことで沖縄高専への理解を深め、進路選択の参考にしてもらうことを目的としています。

今年度は7月25日（土）を予定していましたが、台風12号の接近により中止といたしました。

オープンキャンパス参加者の推移について

6月27日（土）に平成27年度沖縄高専オープンキャンパスが開催されました。今年度は、天候にも恵まれ、825名の方々にご来場いただきました。

今年度は各学科の企画に加え、新たに「グローバル教育」や「航空技術者プログラム」を紹介する企画、キャリア教育センターの企画を実施しました。

本校の多くの学生も中学生や保護者の方々との交流に積極的に参加しました。

今後も地域経済や地域社会のニーズに的確に応えていける高等教育機関として、日々教育活動・研究活動に励んでまいります。

平成21年度 717人【中学生272、保護者269、その他176】

平成22年度 672人【中学生224、保護者310、その他138】

平成23年度 556人【中学生184、保護者272、その他100】

平成24年度 728人【中学生249、保護者434、その他45】

平成25年度 838人【中学生304、保護者338、その他196】

平成26年度 977人【中学生307、保護者等502、小学生168】

平成27年度 825人【中学生239、保護者等300、その他286】



平成 27 年度 沖縄県高校総体の結果について

平成 27 年 5 月 9 日（土）～ 5 月 11 日（月）、5 月 24 日（日）、5 月 26 日（火）、5 月 30（土）～ 6 月 3 日（水）、6 月 4 日（木）～ 6 月 6 日（土）の期間中開催された「平成 27 年度沖縄県高校総体」において、本校からバスケットボール部、弓道部、ハンドボール部、サッカー部、テニス部、卓球部、バドミントン部が出場し、県内の各高校と対戦しました。

大会では各部ともに健闘し、日頃の練習の成果を存分に発揮することができました。

平成 27 年度 沖縄県高校総体結果一覧

平成 27 年度沖縄県高等学校総合体育大会における本校の競技別の結果は以下のとおりでした。会場まで応援に来ていただいた保護者並びに関係者の皆様に感謝いたします。

競 技	競 技 結 果	
バスケットボール（男子）	1 回戦まで	
バスケットボール（女子）	1 回戦まで	
弓道（男子）	団体戦	予選落ち
	個人戦	予選落ち
弓道（女子）	団体戦	予選落ち
	個人戦	予選落ち
ハンドボール（男子）	1 回戦まで	
ハンドボール（女子）	1 回戦まで	
サッカー	2 回戦まで	
テニス（男子）	団体戦	1 回戦まで
	ダブルス	友利・澤紙ペア 1 回戦まで、比嘉・平良ペア 2 回戦まで、並里・上原ペア 2 回戦まで
	シングルス	上原、澤紙 1 回戦まで
テニス（女子）	団体戦	ベスト 8
	ダブルス	徳田・原田ペア ベスト 16 小濱ちひろ・夏美 2 回戦まで
	シングルス	原田、小濱 2 回戦まで
卓球（男子）	団体戦	2 回戦まで
	ダブルス	泉川・高良ペア 1 回戦まで、平仲・古謝（勇）ペア 2 回戦まで、福田・長崎ペア 1 回戦まで、知念・福重ペア 1 回戦まで
	シングルス	泉川、古謝（勇）、平仲、高良 1 回戦まで
バドミントン（男子）	団体戦	3 回戦まで
	ダブルス	屋嘉比・大嶺ペア 2 回戦まで 山城・古謝ペア 2 回戦まで
	シングルス	山城 1 回戦まで 上原 2 回戦まで
バドミントン（女子）	団体戦	2 回戦まで
	ダブルス	知花・島袋ペア 1 回戦まで 新垣・喜納ペア 1 回戦まで
	シングルス	新垣 1 回戦まで 摩文仁 2 回戦まで

スナップ写真 歴史・文化・自然探訪 ふれあいツアー



スナップ写真♪ 体育祭



平成27年度 九州沖縄地区高等専門学校体育大会の結果について

平成27年7月11日(土)～12日(日)、16日(木)～19日(日)の期間で開催された「平成27年度九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会」において、本校から弓道部、テニス部、女子バスケットボール部、ハンドボール部、水泳部、硬式野球部、卓球部及びバドミントン部が出場し、九州地区の各高専と対戦しました。

大会では各部ともに健闘し、日頃の練習の成果を存分に発揮することができました。特にテニス部(男子ダブルス 優勝・準優勝、女子シングルス 準優勝)、水泳部(女子200mリレー2位、女子50m背泳ぎ2位)、弓道部(女子団体3位)は優秀な成績を収め、全国大会に出場する運びとなりました。

また、全国大会への出場が決定した各団体の校長報告会が

7月30日(木)に行われ、出場選手から全国大会へ向けた抱負が述べられたほか、校長から選手たちに対し、有意義な大会となるようベストを尽くして欲しい旨、激励の言葉が贈られました。最後は出場選手全員で記念撮影を行い、校長報告会は終始和やかなムードで締めくくられました。



平成27年度 九州沖縄地区高等専門学校体育大会結果一覧

平成27年度九州沖縄地区高等専門学校体育大会における本校の競技別の結果は以下のとおりでした。会場まで応援に来ていただいた保護者並びに関係者の皆様に感謝いたします。

競 技 種 目	競 技 結 果	備 考
弓道	男子団体 予選落ち、男子個人 予選落ち 女子団体 決勝3位(桐原遥子・座間味愛由・佐渡山楓花) 女子個人 決勝4位(佐渡山楓花)、決勝5位(桐原遥子)	全国大会出場 女子団体 桐原遥子・座間味愛由・名産山楓花
テニス(男子)	団体戦:男子団体第3位 個人戦(シングルス) 男子シングルス第3位 木村育 (ダブルス) 男子ダブルス優勝 宇良宗一郎・大城秀 組 男子ダブルス準優勝 友利祐太・奥間朝之 組	全国大会出場 男子ダブルス 宇良宗一郎・大城秀 組 友利祐太・奥間朝之 組
テニス(女子)	個人戦(シングルス) 女子シングルス準優勝 小濱ちひろ(全国大会出場) (ダブルス) 女子ダブルス3位 小濱ちひろ・原田藤 組	全国大会出場 女子シングルス 小濱ちひろ
女子バスケットボール	予選リーグ 沖縄75-37久留米 沖縄84-19大分 決勝トーナメント 沖縄96-49熊本(八代) 沖縄64-66有明(準優勝)	
バドミントン男子	団体戦男子1回戦敗退 個人戦(シングルス) 伊差川舜 2回戦敗退 屋嘉比悠希 1回戦敗退 宮城諒大 1回戦敗退 伊波研人 1回戦敗退 山城翔吾 3回戦敗退 上原幸平 2回戦敗退(ベスト16) (ダブルス) 伊波研人・伊差川舜ペア 3回戦敗退(ベスト8) 屋嘉比悠希・山城翔吾ペア 1回戦敗退	
バドミントン女子	シングルス 上原理緒奈 1回戦敗退 新垣さくら 1回戦敗退 ダブルス 上原理緒奈・新垣さくらペア 1回戦敗退	
ハンドボール男子	予選リーグ(予選敗退) 沖縄18-20久留米 沖縄16-22都城	
ハンドボール女子	女子(オープン競技) 沖縄9-27有明	
卓球部	シングルス 玉城・渡慶次・古謝(秀) 1回戦敗退 泉川・長崎・福重・高良 古謝(良) 2回戦敗退 ダブルス 渡慶次・玉城ペア 1回戦敗退 今村・横崎ペア 1回戦敗退 古謝(秀)・古謝(良)ペア 1回戦敗退	
硬式野球	トーナメント1回戦敗退 沖縄8-11 佐世保	
水泳(男子)	400m自由形 島袋 決勝4位 800m自由形 島袋 決勝4位 100m背泳ぎ 宮里 予選15位 100m平泳ぎ 上村 予選15位、真栄田 予選18位 50m自由形 新崎 予選9位、上村予選14位 100m自由形 新崎 決勝8位 宮里 予選15位	
水泳(女子)	50m背泳ぎ 宗前紫苑(決勝2位) 200mリレー 沖縄高専チーム(決勝2位) 宗前紫苑 中野貴稀 知念優奈 金城優生	全国大会出場 女子50m背泳ぎ 女子200mリレー 宗前紫苑 中野貴稀 知念優奈 金城優生

平成27年度人事異動について

<4月1日付け異動>

【採用】	校長	安藤 安則
	機械システム工学科	
	教 授	田口 学
	情報通信システム工学科	
	教 授	藤井 知
	総務課	
	一般職員	神谷 優樹
【再雇用】	情報通信システム工学科	
	特任教授	知念 幸勇
【転入】	総務課	
	課長補佐(総務担当)	糸洲 学
	学生課	
	課長補佐	田仲 康克
【昇任】	生物資源工学科	
	教 授	田中 博
	生物資源工学科	
	准教授	嶽本 あゆみ

総務課

課 長	仲宗根 勉
技術室	
技術専門職員	新田 保敏
総務課人事係	
主 任	上江洲 敦
学生課教務係	
主 任	田中 徹
技術室	
技術専門職員	釣 健孝
【校内配置換】	
総務課研究連携推進室	
一般職員	佐加伊 裕也
学生課教務係	
係 長	渡嘉敷 由紀子
学生課学生係	
一般職員	宮平 憲太

<7月1日付け異動>

【転入】	総務課	
	課長補佐(財務担当)	崎山 英樹
	総務課財務係	
	係 長	金城 貴夫
	学生課教務係	
	係 長	屋宜 直行
	学生課教務係	
	一般職員	宮良 長吾
【校内配置換】		
総務課総務係		
係 長	豊川 雅喜	

■ 平成 27 年度（後期）行事予定表 ■

10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月	
1	木	1	日	1	火	1	金	1	月	1	火
2	金	2	月	2	水	2	土	2	火	2	水
3	土	3	火	3	木	3	日	3	水	3	木
4	日	4	水	4	金	4	月	4	木	4	金
5	月	5	木	5	土	5	火	5	金	5	土
6	火	6	金	6	日	6	水	6	土	6	日
7	水	7	土	7	月	7	木	7	日	7	月
8	木	8	日	8	火	8	金	8	月	8	火
9	金	9	月	9	水	9	土	9	火	9	水
10	土	10	火	10	木	10	日	10	水	10	木
11	日	11	水	11	金	11	月	11	木	11	金
12	月	12	木	12	土	12	火	12	金	12	土
13	火	13	金	13	日	13	水	13	土	13	日
14	水	14	土	14	月	14	木	14	日	14	月
15	木	15	日	15	火	15	金	15	月	15	火
16	金	16	月	16	水	16	土	16	火	16	水
17	土	17	火	17	木	17	日	17	水	17	木
18	日	18	水	18	金	18	月	18	木	18	金
19	月	19	木	19	土	19	火	19	金	19	土
20	火	20	金	20	日	20	水	20	土	20	日
21	水	21	土	21	月	21	木	21	日	21	月
22	木	22	日	22	火	22	金	22	月	22	火
23	金	23	月	23	水	23	土	23	火	23	水
24	土	24	火	24	木	24	日	24	水	24	木
25	日	25	水	25	金	25	月	25	木	25	金
26	月	26	木	26	土	26	火	26	金	26	土
27	火	27	金	27	日	27	水	27	土	27	日
28	水	28	土	28	月	28	木	28	日	28	月
29	木	29	日	29	火	29	金	29	月	29	火
30	金	30	月	30	水	30	土			30	水
31	土			31	木	31	日			31	木
・開寮 9 月 26 日 ・開寮式 9 月 27 日 ・後学期授業開始 9 月 28 日 ・ビジネスマナー講習会（3 年生） ・インターシップ報告会（4 年生）		備考		・ツデマーチ（学生会） ・構内美化清掃（学生会主催） ・5 年生を送る会（学生会主催）		備考		・構内美化清掃（学生会主催） ・就職・進学セミナー（5 年生、専攻科 2 年生）		備考	

教務系行事 学生系行事 学生寮行事 学生会行事